

お忙しくても、約2分間で読めます

山内公認会計士事務所

ハートフル・ワード (心からの言葉)

TEL 098-868-6895
FAX 098-863-1495

経営者への活きた言葉

「本質的な問題は何か」を常に問う 古森重隆 (富士フィルムホールディングス会長・CEO)

1. 日本人が物事を曖昧のままにしてしまう根底には、組織の「和」を何よりも優先しようとする日本人の気質があると私は思う。組織の融和に重きを置くあまり、失敗の原因究明によって誰かが傷ついて「和」が乱れることを避けようとする。つまり、本質的な「理(ことわり)」よりも、その場の安寧^{あんねい}を優先してしまう。
2. しかし、真実に正面から向き合わず、分析もせず、合理的な対応も考えずにいては、将来につながる変革は起こせない。企業を経営することも、もちろんできない。企業経営は、より合理的・合目的でなければならず、結果は厳然として業績数値に表れる。問題が起きれば徹底的に分析・検証して同じ失敗を起こさないように全力を尽くす必要がある。現実を冷徹に直視し、対応しなければ、競争の中で淘汰されていくだけである。
3. 物事には大きな流れや理(ことわり)がある。起きてしまった事実には、本質的な要因があるはずだ。企業や組織を率いるリーダーは、背後にある「本質的な問題は何か」を常に問うべきである。それによって物事を曖昧なまま置き去りにすることがなくなり、的確な対応が可能となる。「本質は何か」。これこそが、未来につながる変革を起こすために絶対的に必要な問いなのである。

(参考:「日経ビジネス」2021年1月25日号)

経営者のための危機管理

日本の競争力低下が明確

(Fortune Globa500 (2020) のトップ10に入っているのは1社のみ。500位内には53社が入っているが、中国124社、アメリカ121社)

1. もはや取り返しがつかない差が開いている。日本はコロナ禍でデジタル化が少し進みました。しかし、世界はコロナ禍を機に、もっと先に進んでいます。ビデオ会議が増えたので先日ワイヤレスのイヤホンを買ったのですが、もともと優位性があったはずの日本メーカーの存在感はなくなっていました。
(松尾豊:東京大学大学院教授)
2. 日本に優位性は残っていない、すでに焼け野原だというくらいの強烈な危機感が必要でしょう。そう認識しておかないと、おそらく今後も変わらない。AIやディープラーニングは、ビジネスではもはや必須科目です。「自分はこれがしたい」「これができたら社会が変わる」と想像力を膨らませてほしい。
(川上登福:経営共創基盤パートナー)

(参考:「週刊東洋経済」:2021年2月20日号)

幹部への活きた言葉

すべては自分の「思い」が作り出している 稲盛和夫 (京セラ名誉会長)

1. 実は、「思う」ということが、人間のすべての行動の源基本になっているのです。そのことは、二つの側面から捉えることができます。まず、我われが毎日の生活を送る中で抱く「思い」の集積されたものが、我われの人間性、人柄、人格をつくり出しています。「自分だけよければいい」という、えげつない「思い」をずっと巡らせている人は、その「思い」と同じ、えげつない人間性、人柄、人格になっていきます。
2. 逆に思いやりに満ちた優しい「思い」を抱いている人は、知らず知らずのうちに、思いやりにあふれた人間性、人柄、人格になっていきます。「思い」というのは、ことほどさように非常に大きな影響を我われに及ぼしています。

(参考:「致知」2021年4月号)

古典に学ぶ

人情はおのずから陰悪となる

(解説) 社会問題とか、労働問題等のごときは、たんに法律の力ばかりをもって解決されるものではない。たとえば一家族内にも、父子兄弟に至るまでおのおの権利義務を主張して、法律の判断を仰がんとすれば、人情はおのずから陰悪となり、障壁はその間に築かれて、事ごとに角突き合いの沙汰のみを演じ、一家の和合団らんはほとんど望まぬ事となるであろう。

(参考: 渋沢栄一「論語と算盤」: 国書刊行会)